

ダイナマイトFAX! TRAVEL INFORMATION



It's your agent

京葉ツアーリスト株式会社

千葉県松戸市新松戸 1-318 新松戸ビル2階

http://www.keiyotour.co.jp

～ GW終わって・・・！ ～

キャンセル料どうなる!? その②

東京オリンピック・パラリンピックが1年延期されることになって、大会関係者や競技観戦者などの予約が一気に消滅(取消)！?

宿泊予約は原則として施設側「宿泊約款」によります。この約款は宿泊契約書に相当しますが、ほとんどの施設は漠然と(?) 国土交通省が提供している「モデル宿泊約款」を適用しているケースが多数派です。(各旅行会社の標準旅行業約款も同様です)

ところが、この「モデル約款」には「取消料」という制度はなく「違約金」となっており、しかも取消による違約金は「ホテル用」で20日前～、「旅館用」で30日前～しか請求出来ない規定となっております。(宿泊日前日起算)

しかし、「モデル宿泊約款」は「標準旅行業約款」(消費者にとって不利な条件には変更出来ない)と違い、宿泊者にとって約款規定より「不利益な特約も有効」としています。(オンライン旅行社やホテルのサイトで「予約と同時に取消料100%」などの条件で格安なプランもこの一例)

さすがに2020東京オリンピック・パラリンピックでは値段も高騰、「取消料規定も100%が条件」であったであろうかと思えます。

過去2011年の東日本大震災の際には返金不可の条件であっても全額払戻し対応の施設もあったことから、全額返金になる可能性も十分に考えられますが、「オリンピック・パラリンピックの中止や延期の場合は払い戻す」という表記はほぼないことから、この宿泊約款の「特約」とは別に「消費者契約法」によると「事業者が被るであろう被害額が平均的損害を超える約定(取消料)は無効」という法律もあるので、訴訟の可能性もありましたが、この「コロナ取消」でほぼ空いた部屋の再販はかなりの難題かと思われます。

今回のケースは発注側(主に旅行会社)と宿泊施設との個別交渉もあるようで、幸い「中止」でなく「延期」でその期日も決まっていることから、宿泊予約(契約)もそのまま、「延期」して受領(支払い)した宿泊代もそのまま「延期」して返金もなし。発注側も新日程での五輪観戦のためこの権利を維持したいと考えているであろうことから合意も難しくないと見えます。

そこで今年の空室の処分は、先が見えない(コロナ収束)こともあり、一部飲食店などで行われている、半年から1年程度の有効期限で使用出来る「前払い割引宿泊券」の販売を検討している施設も多いようです。

本来6ヶ月を超える有効期限の場合、資金決済法に基づく前払式支払手段の自家型発行者としての規制(供託)が必要ですが、工夫次第では緩和も可能なようです。又、ライブハウスや劇場などと比較してホテルなどは感染が比較的発生しない場所にもなりうるので、ゲストが室内のみで楽しく過ごせるように「ルームサービスメニューの充実」やネットフリックス見放題&ゲームやり放題、テレビ会議システムを利用出来るなど様々な工夫が検討されております。そして、この話題から少しでも早く離れられることを切に祈っております！

いりさんの出張レポート

添乗はもちろん、出張も趣味もすべて自粛ですが、様々な旅行を計画・充電中です！ 乞うご期待！?

～ ギョウカイNews2020！ ～

旅のサステナブル認証

国連が採択した「持続可能な開発目標」(SDGs)へ旅行者を含めた世界的な意識の高まりから観光庁が今年度の導入を予定する「持続可能な観光指標」の英語名称が「Japan Sustainable Tourism Standard for Destination(JSTS-D)」に決定しました。日本語名称はこれから決定されますが、持続可能性(サステナビリティ)を測る観光指標の立ち上げが目前に迫ります。JSTS-Dが正式に立ち上がった後は観光庁のモデル事業として全国の数自治体で先進的に取組まれます。

観光におけるサステナビリティの重要性が世界的にクローズアップされるなか、観光庁は昨年「持続可能な観光指標に関する検討会」を立ち上げ指標の基本的な枠組みや内容について検討の結果、指標に基づく各観光地の取組みが海外からの評価に結びつくよう、国際的な指標や認証システムに準拠させることなどの基本方針を決定。準拠する指標をグローバル・サステナブル・ツーリズム協議会(GSTC)とすることも決定。GSTCは2008年に世界50以上の団体が連合し、持続可能な観光の国際基準を作るために発足。その後世界観光機関(UNWTO)などの呼びかけにより共同理解を深めるために活動する協議会となり、旅行業や宿泊業など観光産業向けの「GSTC-I」と観光地向けの「GSTC-D」を開発。日本版「持続可能な観光指標」が準拠する国際的な指標を GSTC とした理由は UNWTO に関連する唯一の国際機関であるからとのことです。

ブッキング・ドットコムなどの調査では、サステナブルな宿泊施設を選択する重要性を認識している旅行者の割合は70%に達しています。さらには欧州における「フライトシェイム」(飛行機で移動するのは恥)の動きも旅行者意識の高まりが背景にあります。又旅行先の観光地域を選ぶポイントとしてSDGsの取組みを行っているか否かと云うこともあり、10年後には取組みをしていない観光地は淘汰されて行くだろうとの指摘も。今やツーリズム産業はSDGsや環境を意識しなければ成立しない時代に向いつつあります。

折しもこのコロナ騒ぎが終息のニューノーマルの到来、2023年の世界の航空座席供給量は2019年の75%に留まるとの多くの関係者が予想。新たな習慣と行動の変化が定着することになると見えます。

イエーイ新松戸！

コロナに立ち向かう、地元飲食店と地域をつなぐ食卓応援プロジェクト！

各店の皆様は美味しく个性的なテイクアウトメニューを提供、そのデリバリーチーム事務局として当社が協力・お手伝いしております♪ 美味しい新松戸をご自宅でお楽しみください！ 詳しくは ↓

<https://www.smd-takeout.com>



今後ファクシミリ会報「ダイナマイトFAX」は不要
 送信先・ご担当者様変更(下記ご記入の上返信下さい)

通信欄(ご意見・ご要望・行きたいところなどお知らせ下さい)

貴社名	TEL		
ご担当者	FAX		
お役職			